

年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
市民の皆様には、輝かしい初春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、大阪・関西万博の開催とともに奈良県にも多くの観光客が訪れ、にぎわいのある1年になりました。市としてもさまざまなイベントに参加し、市の魅力を国内外の方にPRすることができました。

他方、全国に目を向けますと、各地で地震や風水害など災害が多数発生し、多くの方が被災されました。また、米価格をはじめとした物価の上昇、日本各地におけるクマの出没など、住民の生活を脅かす事態が相次ぎ、改めて市民の皆様の安全・安心を守る取り組みの重要性を認識する1年でもありました。

昨年9月には、市域南部にある山田寺跡が構成資産となっている世界遺産候補「飛鳥・藤原の宮都」について、ユネスコの世界遺産委員会の諮問機関

であるイコモスによる現地調査が行われ、本年の登録に向けた手続きが着実に進んでおります。世界遺産登録が実現すれば、桜井市は、ヤマト王権発祥の地である「山の辺地域」と、律令国家成立の地である「飛鳥・藤原地域」の歴史資産をつなぐ拠点のまちとして、重要な役割を果たすこととなります。

このことから、世界遺産登録を契機として、桜井市が持つ歴史的・地理的なポテンシャルを生かし、近隣市町村とも広域的な連携を深め、中南和地域の歴史・文化・観光の拠点都市、すなわち「ハブシティ」の実現に向け、令和8年が大きな飛躍の年になることを願っております。

さらに、市政に目を向けますと、令和3年に策定しました第6次総合計画は本年3月で前期基本計画が終了し、4月からは後期基本計画がスタートします。官民連携や広域連携を推進し、行政が取り組むべき事項の選択と集中を行うことで持続可能な行財政運営に

取り組み、「桜井市で暮らし、働く人たちが安全・安心に暮らせるまち」「桜井市を訪れた人がまた訪れたいと思うまち」そして「桜井市の将来を担う若い世代が心から誇れるまち」を実現するため、本年も市民の皆様とともに、まちづくりに取り組みます。

また、本年は市制施行70周年の記念すべき年であります。全国に向けて桜井市を広く発信するとともに、1年を通じて記念事業を開催し、市を挙げて祝い、先人の功績をたたえとともに、市のさらなる発展に行政の力と市民の力を結集していく所存でございます。結びになりますが、本年も皆様にとりまして良き年となりますようご祈念申し上げます、年頭の挨拶といたします。



桜井市長 松井正剛